

## 「やり残しのないように」

るか」と聞かれました。

た。本当に急だったので驚きましたが、いざ振り返ってみると「やり残したことはない」と言える4年間になっていました。

私は、コロナ渦で入学した学年でした。実家から離れての一人暮らしや知り合いがいない環境での生活に不安しかなかった私は、なんとか入学式で友人をつくろうと意気込んで

いました。

しかし、実際に行く必要最低限の会話しか許されないような空気感があって、席自体も離れて座るようになっていたためうまく話しかけることもできなかったりと、靴擦れしていた足を引きずって一人で寂しく帰ったのを鮮明に覚えています。

そんな先が見えない中で始まった私の大学生活ですが、ふ

たを開けてみると

「大学生」を謳歌した4年間になっていました。アルバイトやサークル活動をそれぞれ掛け持ちしながらもできる限り参加し、空きコマにランチに行ったり、夜中まで宅飲みして、お金

トの扉が閉まらなくなり遅刻し、日々の提出物や定期試験、

実習や卒業論文にしっかりと苦しみな

らも大きな事故・事件もなく今に至っています。優雅で余裕のある生活とはかけ離れていましたが、初日に感じていた寂しさを再度感じる暇もなく、いわゆる大学生らしい生活ができていたと満足しています。

4年間を振り返って、人と環境と機会に恵まれていたと改めて感じます。最初こそ不運だったかもしれない経験だったと言える今の自分があ



るのは、周囲の人や環境に支えられていたからだと思っています。

大学生でいられるのは残り数か月しかありませんが、その

中で国家試験や卒業旅行など最後の「大学生」を満喫するだ

けではなく、豊かな大学生活を送れたことへの感謝を関わってきた人たちにしっかりと伝えて、やり残しなく卒業しようと思います。

社会福祉学科4年 辻 結衣